部品 用品 整備 最新動向

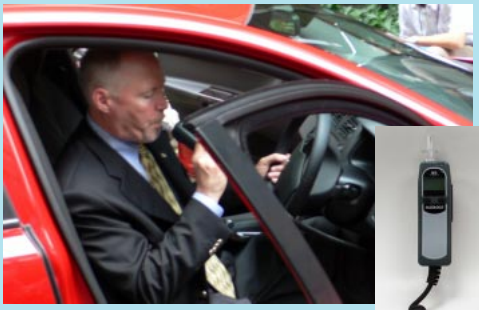
TECHNO RADAR

テクノレーダー

40

アルコール・イグニッション・インターロック

運転手の息からアルコールを検知するとイグニッションキーをロック!



同システムには「モニタリング」の機能も備えており、エンジン始動後も運転者に不定期で警告音を発して再チェックを要求し、アルコールが検知された場合は警察などの行政機関へデータを送信することもできるという。

■飲酒運転の根絶に期待大！

警察庁のまとめによると、平成14年6月施行の道路交通法改正により「酒気帯び」「酒酔い」状態での運転、いわゆる『飲酒運転』に対する罰則が強化されて以降、交通事故総件数に占める飲酒運転事故の割合は着実に減少している。

しかしながら、飲酒運転者は習慣性が強く、摘発されても再び飲酒運転をしてしまうケースが少なくないといわれ、単に罰則を強化するだけでなく再発防止に有効な手立ても必要とされるのが現状だ。

このような中、NPO法人のMADD Japanが発表した「アルコール・イグニッション・インターロック」システムは、飲酒運転常習者の根絶に高い効果が期待できると注目が集まっている。

同システムは、運転席に装着された携帯電話サイズの検知器に息を吹きかけると呼気中のアルコール濃度を測定し、一定レベルの酒気が検知されると自動的にイグニッションキーをロックしてエンジンの始動をできなくするものだ。

米国やカナダは、飲酒運転の再犯者を対象にした矯正プログラムの一環として一部で導入し、再犯防止に成果を挙げているという。またスウェーデンでは、平成24年から新型車のすべてに同システムの搭載を義務化する。

クルマへ同システムを取付ける要領は、イグニッション関連の配線にシステム側の配線を割り込み結線させるのが基本作業となる。実質的にはコラムカバーの脱着や配線を見つける時間に応じて、車種により数千円から数万円まで工賃の差が出るとみられるが、国産車・輸入車どちらにも装着できる（イモビライザー装着車にも取付け可能とのこと）。

MADD Japanでは、全日本トラック協会の協力を得て同システムの導入効果を検証すると同時に、関係省庁へ同システム装着の法制化を働きかける方針だ。今後、日本で普及するのか未知数だが、整備工場でも同システムの取付けに対応できるのであれば、特に長距離トラックやバスなど営業車両の装着需要が高まることに期待したい。